



令和5年度 旭川未来会議2030

障がいスポーツ分野テーマ

旭川を世界に通用する 『**パラスポーツ**』の メッカに

2023年10月24日
障がいスポーツ分野

パラスポーツとは

- 競技レベルからレクリエーションまでレベルは様々
- 障がいに合わせて、
ルール・道具を変更する事で誰でも行えるスポーツ
- 旭川からはトップアスリートも輩出されている

旭川市パラスポーツまちづくりビジョン2030

気軽に公共施設にアクセスできる 旭川市のユニバーサル化

- 障がいを個性と認識ができる
- 多職種での連携ができる

誰もが住みやすい街

人口増加

観光客増加

商業の活性化

など

旭川市パラスポーツまちづくりビジョン2030

ロードマップ

3つの提言	細目	2024年	2027年	2030年
ユニバーサル化	4つ関わり する・見る・知る・支える	「する」 20%	「4つ」 80%	「4つ」 100%
	公共施設 (公民館など)	・複合化設計図	・順次建て替え	—
	移動支援	・公共施設職員	・タクシー業界	・新規参入
パラスポーツ教育	市内小中	・10校実施	・全校実施	・全校道具設置
	市内高校	—	・ユニバーサル化	・パラスポ実施
パラスポーツ部設立	部局	・部局検討会議 ・啓蒙イベント	—	・市職員のパラスポーツ資格取得
	情報網	・市で一括管理	—	—

提 言

移動手段・公共施設やスポーツ施設等のユニバーサル化

目 標

- 外出時困る 45% → 25%
- 市内公共施設のユニバーサル化 100%
- 障がい者のスポーツ参加率 20.7% → 100%
(する、見る、支える、知る)

具体策

対象：移動支援、公共施設、公共施設の職員

- ▶ 移動支援サービスの充実
- ▶ ハード面だけでなく働く人に対する教育
- ▶ 新設公共施設を有識者の設計によるユニバーサル化

- 障がい者が**社会参加しやすい環境づくり** → **商業の活性化**
- 市民、子どもの**健康増進** → **医療費の削減**
- 大会・合宿招致（スポーツツーリズム） → **観光客の増加**

提 言

教育にパラスポーツの導入を

現状：特別支援学級の在籍数

小学校（9.3%）・中学校（7.5%） 増加傾向

目 標

- 2024年から10校開始、2027年には全校実施
- 旭川市内の高校に車椅子で通える環境を整備
- 障がいのある子が学びたいと思った時に学べる環境を確立

具体策

対象：小学校、中学校、教職員、保護者

▶ 旭川にゆかりのあるパラスポーツ関係者が
道徳・学活・体育の時間を用いてパラスポーツ教育を行う

- 在学中から障がいを個性と認識する機会の創生
(多様性を考える)
- 共生社会の実現に向けて心の教育を行う

提 言

市役所にパラスポーツ部（係）を早期設置

目標

- パラスポーツ関係団体ネットワークの整理
- パラスポーツの情報が当事者（家族、関係者）に届く
- パラスポーツ振興に向けて**多職種の連携推進（仲間づくり）**

具体策

対象：市役所、当事者、パラスポーツ関連団体

- ▶ パラスポーツ振興に関する部局検討会議を実施
- ▶ 情報・ネットワークの整理
- ▶ パラスポーツ体験・啓蒙イベントの実施

- 旭川市におけるパラスポーツ振興→課題を継続的に調査する
- 市が共生社会を作る一端を担う
→パラスポーツが旭川市の文化として根付く環境を作る

- パラスポーツのメッカを目指すには、**市役所内部に担当部署を作る**
- パラスポーツ教育の価値を高め、**旭川市民の心のユニバーサル化を図る**
- パラスポーツのメッカとは、**スポーツを通じた共生社会のあり方の一つであり、様々な仲間が集える機会を作る**

誰もが住みやすい旭川を目指して！

障がい者スポーツ分野参加者

阿部 龍雄	麻生 早苗
高田 朋枝	二條 実穂
藤田 佑平	赤堀 達也
内村 隆一郎	今野 征大
五十嵐 真幸	塚田 鉄平

会議経過

日付	内容
6月22日	第1回会議（現状分析）
7月27日	第2回会議（課題について意見交換）
8月17日	第3回会議（具体的取組について意見交換）
9月7日	第4回会議（報告会資料作成）